

令和2年度 学長戦略経費（公募型プロジェクト）実績報告書（研究実績）（収支決算）

経費の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 共同研究推進 <input type="checkbox"/> 若手教員研究支援 <input type="checkbox"/> 個人研究支援
研究題目	附属義務教育学校化に向けた総合的マネジメントの開発とプロセスの普遍化に関する研究
研究代表者 所属・職名・氏名	北海道教育大学釧路校・附属釧路小学校 教授・校長 内山 隆
研究分担者 所属・職名・氏名	北海道教育大学釧路校・附属釧路中学校 教授・校長 早勢 裕明 北海道教育大学・副学長 玉井 康之 北海道教育大学釧路校・キャンパス長 浅利 祐一 北海道教育大学釧路校・評議員 佐野 比呂己 北海道教育大学釧路校・評議員 酒井 多加志 北海道教育大学附属釧路中学校・副校長 小林 一博 北海道教育大学附属釧路小学校・副校長 大月 さゆり 北海道教育大学附属釧路小学校 主幹教諭・遠藤 直人 教諭・高瀬 航平 登藤 珠実 長屋 樹廣 羽石 紀之 中村 有佐 山崎 博幸 中村 謙太 溝渕 英里 田中 美穂 畠中 智広 佐々木 惇基 棚谷 智実 大浦 裕大 坂下 眞美 里見 蒔 玉置 裕也 石橋 樹里佳 大津 愛唯 ダレン・ホーク 北海道教育大学附属釧路中学校 主幹教諭・更科 結希 教諭・赤本 純基 松永 美和 柴田 題寛 三光楼 正洋 野口 朝央 齊藤 貴文 山本 勇太 足立 英世 中村 純平 井下 裕喜 細野 歩 眞島 良太 柳澤 知優 広瀬 卓也 伊藤 千明 福田 貴大 稲葉 泰愛 大西 美衣子 亀田 崇仁 鈴木 陵平 江渡 明香 スティーブ・グッド

北海道教育大学釧路校・特任教授・二宮 信一
 教授・境 智洋
 教授・佐々木 宰
 教授・森 健一郎
 准教授・菊野 雅之
 准教授・廣重 真人
 准教授・小野 亮祐
 准教授・越川 茂樹
 准教授・鈴木 健太郎
 講師・中山 雅茂

研究実績の概要

1. 本研究の目的—附属義務教育学校化に向けた総合的マネジメントの開発とプロセスの普遍化

本研究の目的は、附属義務教育学校に向けた小中一貫教育の総合的なマネジメントを構想・実現し、そのプロセスを普遍化し情報発信することである。このことは、附属学校が果たすべき役割の中核であり、大学及びキャンパスと協働した義務教育学校化への取り組みを通して、「国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議報告書」（平成 29 年 8 月）で指摘された地域の公立学校に対するモデル提示、大学のガバナンスによる教育・研究への貢献が不十分であるという課題を解決するものである。そこで、図1のような共同研究体制を組織した。

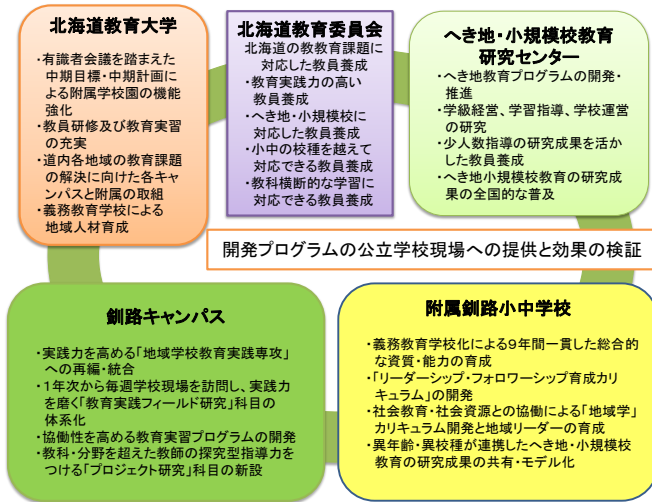


図1:大学・キャンパスと附属小中学校が一体となった共同研究

目的を実現するために、義務教育学校化の総合的なマネジメント構築の過程で生まれる様々な課題とその解決プロセスを記録化し、地域・学校の実態に応じて活用できる解決方法について発信することで、今後各地で加速する小中一貫教育及び義務教育学校化の取り組みを支援する。具体的な取組の内容は、以下の通りである。

2. 何のために義務教育学校にするのか [理念]

次の50年に向けた附属釧路小中学校の義務教育学校化プロジェクト

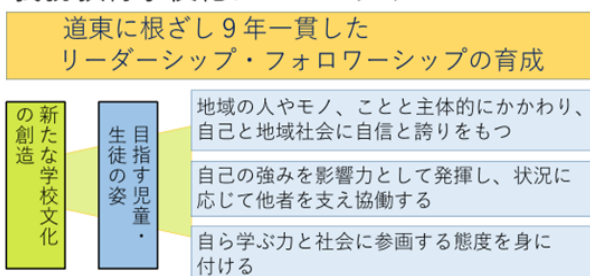


図2:義務教育学校として目指す児童生徒像

最も大切なのは、何のために小中一貫教育を行うのか、義務教育学校化するのかということである。つまり、何を実現するのかという目的を明確にすることである。附属釧路義務教育学校では、道東の地域課題を踏まえて地域を担う人を育てるための義務教育学校づくりをすることにした。地域に根ざし、どのような児童生徒を育てるのかという教育の理念を全ての関係者が共有することが第一歩となる。

3. 育てたい力は何か [資質・能力]

道東の教育課題として捉えた過疎地域を担うリーダー育成、異年齢・異世代集団にお

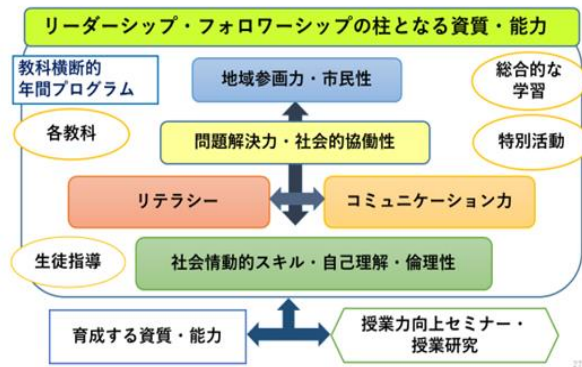


図3:育成する資質・能力

けるリーダーシップの育成, コミュニティ・スクールとコミュニティ・リーダー育成を育てたい資質・能力として構想することにし, リーダーシップ教育の理論と実践について先行研究を検討した。¹⁾

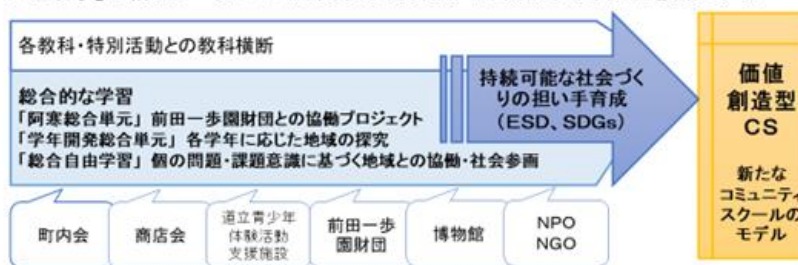
現代のリーダーシップは, これまでの一人のリーダーが引っ張るという, どちらかと言えば天性の資質ではなく, 全ての人が発揮し, 他のメンバーと連動する影響力であり, 学習可能なものであることが明らかになった。

そこで, 図3のように地域を担う人を育成する上で, 誰もがリーダーになり, フォロワーになる「リーダーシップ・フォロワーシップ」を目指す児童生徒像の実現に向けて育成する力とした。²⁾

4. どのようなカリキュラムを開発するのか [教育課程]

社会教育・社会資源との協働カリキュラム開発・実践・評価システム

<「地域学」の構想> 見つける、関わる、探究する、協働する、価値を創造する



*単なる学習支援ではなく、カリキュラム開発から実践・評価まで協働で行う

図4:教科横断型の探究プロジェクト「地域学」

地域を担う人を育てるリーダーシップ・フォロワーシップ育成のためのカリキュラム・マネジメントを, 図4のように地域の人やもの, ことと関わりながら, 地域の課題を探究する「地域学」プロジェクトとしてデザインした。保護者はもとより, 地域の多様な人的及び社会的資源とのネットワークを構築しながら, 地域の価値を発見・創造していくコミュニティ・スクールとしての学校の在り方についても探求していく。³⁾

本校が目指す「リーダーシップ・フォロワーシップの育成」は, 図5のように一人一人の児童生徒が個のよさや特性を様々な場面に応じてリーダーシップ(影響力)として発揮し, 互いに支え(フォロワーシップ)ながら, 「主体的・対話的で深い学び」を実現し, 資質・能力を高めていくものである。ここで重要なのは, まず一人一人のよさや特性を確かに見とることである。

個の見とりは日常的に学級担任や教科担任を中心に, 全教員で共有している。また, 大学の特別支援を専門とする研究者と協働して特別なケアや配慮を必要とする子供とその対応について話し合い, 共有している。

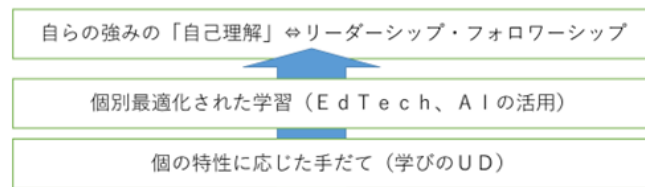
さらに, 授業での学びや様々な活動, 学年・学級での生活場面において, その子供がリーダーあるいはフォロワーとしての影響力をどのように発揮できるか, 手だてを構想し実践につげなる。

令和3年1月の文部科学省「令和の日本型学校教育」の構築を目指して(答申)～全ての子供たちの可能性を引き出す, 個別最適な学びと, 協働的な学びの実現～のは, まさにこのことと重なることであり, 本校は「令和の日本型学校教育」のモデルとしての役割も果たすことが求められている。

「学びのUD」は, 「すべての学習者にとって効果的でインクルーシブなカリキュラムのデザインと開発を導

リーダーシップ・フォロワーシップの育成と「いいことみつけ」からの「個別最適な学び」(学びのUD)

○リーダーシップ・フォロワーシップを発揮する「主体的・対話的で深い学び」
自らの持つ能力的・性格的な強みを影響力として発揮する



○「いいことみつけ」 個の見とり (大学特別支援教育専門教員との協働)

図5:「個別最適な学び」(学びのUD)と「リーダーシップ・フォロワーシップの育成」

く」ものである。4) 多様な個性と特性を持つ児童生徒が、それを互いに求め合い、リーダーシップ・フォロワーシップとして発揮し合えるようにするインクルーシブな「共生空間」としての学校を目指す。

今年度は、コロナ禍にあって GIGA スクールへの進展が加速したことから、「個別最適な学び」と「リーダーシップ・フォロワーシップの育成」の一体的な実現に ICT をどのように活用するかという視点について、附属中学校〔後期課程〕で先導的に授業実践を積み重ねた。この成果は、『主体的・対話的で深い学びを指向するオンライン授業』として書籍化し、附属中学校の HP からダウンロードできるように情報発信されている。

5. どのようにして義務教育学校への検討を進めたか〔課題解決プロセスの記録化〕

前述の理念を全教職員が共有し、検討事項と担務の工程表を作成した。附属小中学校の主幹教諭を中心に各分掌組織を活用して役割を分担し、検討した（図6参照）。課題点については全体の会議で共有、解決していった。また、検討内容及び課題とその解決方法について記録化し、公立学校で活用できる情報として発信できるように表現を工夫した。検討した課題及び内容は、以下の表1の通りである。

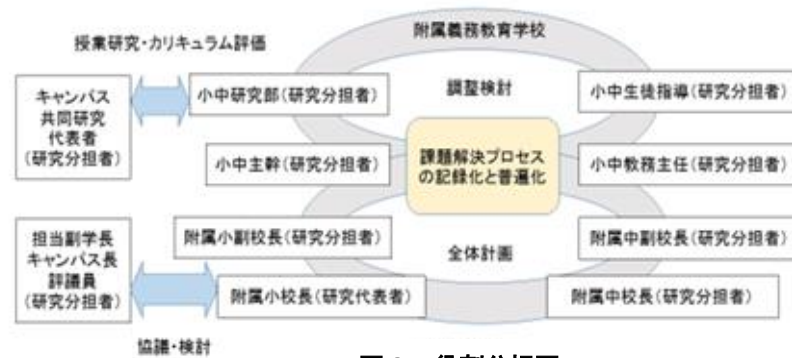


図6：役割分担図

表1：義務教育学校に向けた検討課題及び内容

<p>1. 一貫した教育課程の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 各教科の小中一貫カリキュラム (2) 総合的な学習の時間 (3) キャリア教育（キャリアパスポート） (4) 学校行事 	<p>2. 一貫した育ちを支える指導方法・指導体制の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 校務支援システム (2) 時程 (3) 児童生徒理解 (4) ICT 活用に向けた取組 (5) 学習評価 (6) 家庭学習 (7) 学習の決まり・生活の決まり
<p>3. 各関係機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) PTA や地域との連携 (2) 教育委員会、公立学校との協働関係の構築 	

6. 研究の成果と課題は何か

本研究を通して、義務教育学校化において理念を共有しながら課題解決を図ることができ、その重要性が明らかになった。また、その取組プロセスを記録化し可視化して情報発信するところまで実施したことにより、北海道を中心とする公立学校への小中一貫教育に向けたモデルを提示することができた。

今年度はコロナ禍にあって、リーダーシップ・フォロワーシップ育成カリキュラムの検証のための授業力向上セミナーを当初の計画通りには実施できなかった。しかし、ICT の活用を含めたセミナーと授業力向上セミナーを、附属小中学校合わせて約 100 回実施し、約 2,000 名の参加を得ることができた。

今後は、こうした年間を通じた授業研究をベースに、リーダーシップ・フォロワーシップの育成カリキュラムの検証とそれに伴う教員の資質・能力の向上について実証的に研究していきたい。

注)

- 1) 中原淳監修・高橋俊之・舘野泰一編著『リーダーシップ教育のフロンティア 高校生・大学生・社会人を成長させる「全員発揮のリーダーシップ」理論編』『同 実践編』（北大路書房、2018）
- 2) 経済協力開発機構（OECD）〔編著〕ベネッセ教育総合研究所〔企画・制作〕無藤／秋田〔監訳〕荒牧／都村／木村／高岡／真田／持田〔訳〕『社会情動的スキル 学びに向かう力』（明石書店、2018）
- 3) 黒田友紀「真正の学びとラーニング・コミュニティを中心とする学校改革の検討」（『静岡大学教育学部研究報告（人文・社会・自然科学編）』第 63 号、2013）
- 4) トレーシー・E・ホール、アン・マイヤー、デイビッド・H・ローズ編／バーンズ亀山静子訳『UDL 学びのユニバーサルデザイン』（東洋館出版社、2018）

研究発表（出版や掲載が確定しているもの）	
【著書】	
北海道教育大学附属釧路義務教育学校著『令和の日本型学校教育への挑戦 義務教育学校「附属釧路義務教育学校」への道標 リーダーシップ・フォロアーシップの育成のための総合的カリキュラム・マネジメント』（自費出版、2021年、62ページ）	
研究成果が教育現場または地域で活用可能な分野	
小中一貫教育並びに義務教育学校化の進め方のモデルとして、またコミュニティ・スクールや「令和の日本型学校教育 個別最適な学びと協働的な学びの実現」についての地域に根差した総合的カリキュラム・マネジメントのモデルとして活用できる。	
配布又はダウンロード可能な資料	北海道教育大学附属釧路中学校著『主体的・対話的で深い学びを指向するオンライン授業』（附属中学校 HP よりダウンロード可）
問合わせ先	内山 隆 uchiyama.takashi@k.hokkyodai.ac.jp